

宇佐市平和ミュージアム(仮称)  
基本構想・基本計画

宇 佐 市

# 目次

## 第1章 基本構想

1. 宇佐市平和ミュージアム整備の意義と目的	1
2. 宇佐市平和ミュージアムがめざすもの	2
3. 資料館の考え方	3
4. 戦争遺構群の考え方	6
5. 管理運営の考え方	8

「宇佐市平和ミュージアム（仮称）基本構想・基本計画」では、本構想・計画に係る用語を、本頁以下、下記のとおり定義する。

- ①宇佐市平和ミュージアム（仮称）を、「宇佐市平和ミュージアム」とする。
- ②展示や活動の中核となる施設を「資料館（仮称）」とし、「資料館」とする。

## 第2章 基本計画

### 1. 基本方針

- (1) 事業の方針…………… 9
- (2) 活動計画…………… 10

### 2. 展示計画

- (1) 展示の方針…………… 13
- (2) 展示の基本的な考え方…………… 14
- (3) 展示の構成…………… 15

### 3. フィールド展示計画

- (1) フィールド展示の方針…………… 17
- (2) 遺構の整備…………… 18
- (3) 見学のための整備エリア…………… 21
- (4) 見学コースの策定…………… 22
- (5) 人的支援の整備…………… 23
- (6) モバイルを活用したガイドシステム…………… 24

### 4. 施設計画

- (1) 施設計画の方針…………… 25
- (2) 立地…………… 26
- (3) 規模と敷地…………… 32
- (4) 施設の構成…………… 34

### 5. 管理運営計画

- (1) 管理運営の方針…………… 37
- (2) 運営方式…………… 38
- (3) 運営体制…………… 39
- (4) 開館形態…………… 42
- (5) 館外組織…………… 43

### 6. その他

- (1) 今後のスケジュール…………… 44
- (2) 今後の課題…………… 45

# 第 1 章

## 基 本 構 想

---

# 1. 宇佐市平和ミュージアム整備の意義と目的

---

太平洋戦争後70年を迎えようとする現在、戦争があったことすら知らない若者も少なくない時代になっています。

宇佐には、かつての戦争により多くの命が犠牲になったことをはじめ、歴史を今に伝える遺構が数多く現存しています。私たちには、この「我がまちも戦場であった」歴史を後世に伝えていく責務があります。

宇佐市平和ミュージアムは、資料館と遺構群で構成し、近現代における戦争の歴史を明らかにするとともに、多くの人々に「平和の大切さと命の尊さ」について考える機会を提供することを目的とします。

## (1) 風化する現実を受けとめ後世に守り伝える

我が国では、70年近く平和な日々が続いています。その一方で、戦争体験者の証言、遺構は、年々失われていく現実があります。

この風化する現実を受けとめ、宇佐に関わる明治以降の戦争を中心とした資料を、可能な限り収集、記録、保存し、後世に伝えていくことにより、今日の平和への理解を深めることができます。

## (2) 宇佐だからできる活動の拠点をつくる

宇佐には、多くの遺構が残されています。これらは、戦争の歴史を伝え続けるための貴重な“遺産”であり、大きな特徴のひとつです。宇佐だからこそ、幅広く多くの人々に「平和の大切さと命の尊さ」のメッセージを発信することが可能であり、そのために多彩な活動を創出し、支援していきます。

## (3) 宇佐らしさを広くアピールする

宇佐には、海軍航空隊が置かれ、全国から多くの若者が集まり、戦いの空へ飛び立って行く者もいました。航空隊に関係した人々は、滞在中宇佐の人々との交流がありました。その交流の中でのさまざまな証言が残されています。

また、航空隊の遺構群は、広大な田園地帯の中に存在しています。このため訪れる人々は、空襲で荒れ野となった飛行場が、住民のたゆまない努力により、美田として復活したあゆみを知ることができます。この地域は、負の遺産としてだけでなく、未来に伝えるべき歴史的な自然景観としての魅力も有しています。

このような航空隊に関する多くの証言や航空隊の置かれた背景を宇佐らしさと捉え、広く発信していくことができます。

---

## 2. 宇佐市平和ミュージアムがめざすもの

---

宇佐市平和ミュージアムは、点在する遺構、現存する遺物、体験者の証言などを基に、戦争の歴史を伝え、「平和の大切さと命の尊さ」にふれる機会の創出をめざします。

施設においては、他の類似施設とは一線を画す独自のミュージアムを求めています。宇佐海軍航空隊を中心とした戦争の歴史を掘り下げ、その事実を収集、保存、記録し、展示や公開をしていく中で、テーマである「平和の大切さと命の尊さ」を、自分の問題として身近に受け止めることができるように、より多くの人々が気軽に利用できる親しみやすい施設をめざします。

運営面においては、多くの市民が参加できるシステムを構築し、資料館を拠点とした「平和の大切さと命の尊さ」に対するさまざまな活動を推進して行きます。また、利用者サイドと運営サイドが交流を深め、利用者ニーズを活動内容に反映させていくミュージアムをめざします。

### (1) 宇佐の独自性を前面に出した施設

屋外に点在する遺構と、平和を継承する活動、屋内展示を中心とする資料館が一体となり、相乗効果を発揮するという、宇佐ならではの特徴を持つ施設をめざします。

### (2) 親しまれる開かれた施設

展示や遺構の見学、それに関わる体験のほか、市民の交流や憩いなどの機能を充実させ、満足度の高い親しまれる施設をめざします。

### (3) 思いを巡らし感性を高める施設

戦争遺産や展示等を通して、利用者がそれぞれの思いや考えを自由に深められる施設をめざします。

---

## 3. 資料館の考え方

---

宇佐市平和ミュージアムの目的を実現するには、資料館の建設やそれに伴う敷地の確保、機能や諸室を検討する必要があります。

### (1) 立地

資料館建設の立地については、点在する遺構との一体化をめざす中で、最適な立地条件が必要とされます。

#### ①本物が体感できる場

館内展示や活動との連携により、過去に戦場であった地を感じられる立地が求められます。

#### ②交通アクセスの利便性

より多くの人々の来館を想定し、マイカーや貸し切りバスによる来館を考慮すると、主要道路沿いが望ましく、公共交通機関からも短時間でスムーズにアプローチできる立地が求められます。

#### ③移動負担の軽減

資料館と遺構間における見学者の移動負担の軽減を考慮した、より効率の良い動きのできる立地が求められます。

#### ④用地取得の可能性

円滑に建設を進めるには、用地取得の容易な立地が求められます。

#### ⑤財源確保の優位性

国・県等の補助制度の活用可能な立地が求められます。

### (2) 規模と敷地

資料館の建設に向けて、建設規模の検討やそれに伴う敷地の確保が必要とされます。

#### ①資料館の規模

資料館は、既存の類似施設の状況を踏まえながら、必要諸室の積算から建築延床面積を算出する方法により、施設規模を検討し、計画します。

## ②敷地の規模

敷地を確保する規模は、建物のほか駐車場や屋外の必要な設備、敷地内の快適性や美観を考慮することを中心に検討し、計画します。

## (3)機能

資料館には、下記のような機能が必要とされます。

### ①収集・保存機能

戦争や当時の宇佐などに関する実物資料や写真、証言など、あらゆる情報を収集する機能を持たせます。収集した情報は、データベースに整理し、保存します。また、実物資料は適切な環境で保存します。

### ②調査・研究機能

収集し、保存された情報や資料を基に専門の担当者がこれを調査し、研究します。また、外部の研究者等に対しても調査研究の支援を行います。

### ③展示・公開機能

調査し、研究した成果を常設展示や企画展示、各種イベントで公開するほか、遺構見学の計画と実施や、活字媒体やHPなどによる情報発信を広く行います。

また、展示の補完として、戦争の歴史的背景を十分に知ることができるように、歴史の専門家にも利用されるような充実した資料を収蔵したライブラリー機能を持たせます。

### ④フィールドガイダンス機能

点在する遺構を含めたフィールドについても、館外展示として捉え、利用者に充実した戦争遺構見学を提供するための案内や解説を行います。

### ⑤教育・普及機能

教育関係者や住民、市民団体など地域と連携した講演会や企画展、イベントなど平和学習に資する各種活動を行います。

## (4)資料館の諸室構成

資料館建設には、施設機能及び活動内容を具体化し、その円滑な運営を図るための諸室構成が必要とされます。

### ①収蔵部門の諸室

実物資料や書籍、写真や映像データなどの収集資料を安全に保管する収蔵庫やデータ保管室などを検討し、配置します。



②調査・研究部門の諸室

専門職員が調査活動や研究活動を行うための諸室や、それに必要な設備の諸室を検討し、配置します。

③展示部門の諸室

常設展示室のほか、ライブラリー機能を有した諸室、企画展示や各種のイベントを開催する諸室や準備室、什器や備品を収納する倉庫などを検討し、配置します。

④交流部門の諸室

市民や学生の活動に向けた諸室、研修や修学旅行団体の受入れに対応できる諸室などを検討し、配置します。

⑤サービス部門の諸室

入退館時に利用するエントランスロビーや飲食、物販、休憩する諸室を検討し、配置します。

⑥管理部門の諸室

活動の全体を管理する館長室及び事務スペースのほか、応接室や会議室などを検討し、配置します。

---

## 4. 戦争遺構群の考え方

---

戦争の歴史を知る手がかりとしては、体験者の証言、遺構、遺物、関係者が遺した記録などがあります。しかし、体験者は年々少なくなっており、証言者は確実にヒトからモノに代わるため遺跡の保存と活用が重要になります。

また、宇佐には広大な田園地帯を中心に、掩体壕や滑走路跡などを始めとして宇佐海軍航空隊の関係遺構が数多く保存されており、これらは豊かな自然を背景にした野外博物館（フィールドミュージアム）としての魅力を秘めています。

### (1) 戦争遺構の現状

宇佐市では、平成5年度に「宇佐海軍航空隊跡史跡整備検討委員会」を設け、宇佐航空隊史跡等保存事業基金を設置しています。

平成22年度には、「宇佐海軍航空隊跡保存整備計画書」（以下、「整備計画書」という。）を策定し、遺構の概要や整備活用方針、整備内容などを示しています。

#### ① 遺構数

宇佐海軍航空隊跡関係遺構として、整備計画書には、23の遺構を明記しています。

#### ② 点在範囲

整備計画書に明記された遺構のほとんどは、宇佐海軍航空隊跡地の中心から約4キロ四方に点在し、標的のみが宮熊沖にあります。

#### ③ 整備状況

宇佐海軍航空隊に関わる遺構の保存については、城井1号掩体壕や高居地下壕を市の史跡に指定し、保存整備を行ってきました。また、滑走路跡と重なった位置にある市道には、平和のモニュメントを設置するなどの顕彰事業も実施しました。

城井1号掩体壕は史跡公園に整備され、滑走路跡は市道として整備され位置が表示されています。他の遺構についても、整備計画書に基づき、市有化や案内板の設置等整備を進めています。

現在、遺構のうち5カ所は、市指定史跡に、1カ所を市登録文化財としています。なお、市有化されている遺構は、10カ所あります。

### (2) 戦争遺構の整備

宇佐市教育委員会は、平成23年度に宇佐海軍航空隊跡活用計画検討委員会（以下、「活用計画委員会」という。）を設置し、整備計画書に基づいた具体的な整備を随時行っています。資料館と遺構の一体化には、活用計画委員会と調整をとりながら、遺構の整備を進める必要があります。

#### ①遺構の整備保存

遺構保存の形態には、整備保存、現状保存、記録保存があります。整備保存にあたっては、活用計画委員会と調整をとりながら、検討していきます。

#### ②整備内容と整備時期

見学対象となる遺構の具体的な整備は、所有者の同意を得て行いますが、利用者の利便性や安全性の確保、見学コースなど総合的に検討する必要があります。活用計画委員会と調整をとりながら、検討していきます。

また整備時期においては、資料館の開館に合わせるなど、工程調整も必要となります。

### (3)資料館との一体化（遺構の保存整備と見学）

宇佐市平和ミュージアムの展示は、館外展示物としての遺構群と館内の遺物や資料等によって構成されます。このため見学するための遺構の保存整備にあたっては、館内展示との一体化が必要となります。

#### ①遺構の選定

資料館との一体化に適する遺構を検証し、見学対象となる遺構の整備を検討します。

#### ②見学エリアの選定

資料館の展示解説との一体化を図るため、遺構の見学エリアを検討します。

#### ③見学コースの策定

利用者の様々な目的や意向に沿った遺構の見学を想定し、見学コースを検討します。見学コースには、資料館から遺構までの距離や所要時間を考慮し、適切な移動手段についても検討します。

#### ④デザインの統一

資料館と一体化する遺構は、宇佐市平和ミュージアムの館外展示物として、資料館のサイン計画や解説計画とデザインの統一を図る必要があります。遺構の屋外サインや解説のデザインは、活用計画委員会と調整をとりながら、検討していきます。

---

## 5. 管理運営の考え方

---

### (1) 運営方式

「平和の大切さと命の尊さ」を後世に伝えていくという使命とその活動内容を考慮し、効率的かつ長期的な活動ができる運営体制の確保を図る必要があります。このため、指定管理者方式の導入を含め、継続的な運営の確保を前提とした運営体制を多角的に検討します。

### (2) 組織

宇佐市平和ミュージアムの目的を達成するために、活動を総合的にマネジメントできる以下のような運営組織が必要になります。

#### ①館長

高い専門性と経営感覚をもち、施設の持つ機能と事業運営の両面から総合的にミュージアム活動をマネジメントできる経験豊かな人材の配置が求められます。

#### ②学芸部門

収集・保存、調査・研究、展示・公開における専門的な知識と経験を持ち、活動にも積極的な提案と推進を行うことができる人材の配置が求められます。

#### ③フィールド部門

館外の遺構の管理やフィールドを活用した企画や運営、ガイドの育成を行うことのできる人材の配置が求められます。

#### ④事務部門

一般事務の他、広報業務や利用者サービス業務、ショップ業務など多岐にわたる業務を推進する人材の配置が求められます。

## 第2章

### 基本計画

# 1. 基本方針

## (1) 事業の方針

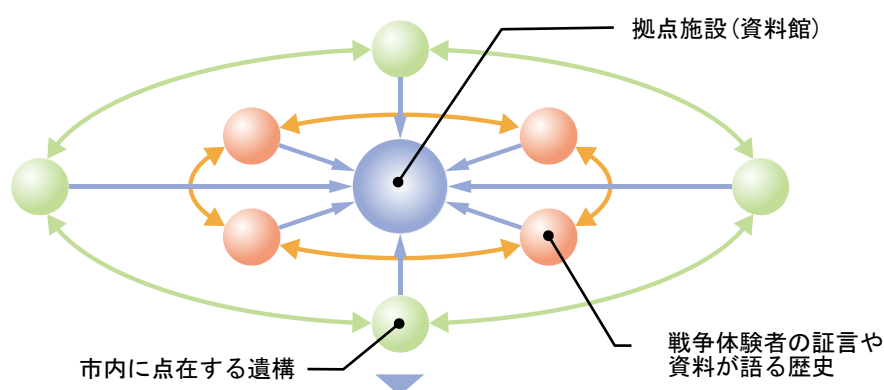
### 「平和の大切さと命の尊さ」を考える機会を提供します

宇佐には、約70年前の真実を今に伝える遺構が数多く残されており、戦争の歴史を語り継ぐ活動が続けられています。

戦争体験者の証言や現存する遺物などをはじめとする資料で歴史を理解し、実際に遺構を見学することで、「平和の大切さと命の尊さ」について深く考える機会を提供します。

本事業では、歴史（戦争体験者の証言や資料が語る歴史を知る）や場所（遺構）をつなぐ拠点施設（資料館）を整備し、様々な活動を展開します。

#### 遺構や戦争体験者の証言、資料が語る歴史をつなぐ拠点を整備



#### ① 歴史をつなぐ

失われつつある戦争体験者の証言や散逸している資料を幅広く収集、記録、保存し、風化させることなく、これらが語る歴史を次代へ継承します。

- 収集・保存活動
- 調査・研究活動
- 展示・公開活動

#### ② 場所をつなぐ

数多く残された遺構の存在や歴史、互いの関係性を紹介します。また、実際に現地に赴き本物を見学したり、併せて市内を周遊する機会を提供します。

- 拠点活動

#### ③ ひとをつなぐ

「平和」をキーワードに市内外、幅広い世代の方々が集まり、互いの考えや思いを語り合える機会を提供します。

- 教育・普及活動
- 情報発信・交流活動

## (2) 活動計画

### ① 収集・保存活動

長期的な計画や具体的な計画を策定し、効率的且つ的確な収集保存活動を行います。

[主な活動内容例]

- ・ 収集計画の策定と実施(収集目的と対象、収集方法とスケジュール、人員など)
- ・ 保存計画の策定と実施(保存環境、保存方法など)
- ・ データベース化に関わる活動



### ② 調査・研究活動

収集した資料〈実物資料、書籍、写真・音声・映像等の記録資料〉やデータを分析し、その成果をまとめます。

[主な活動内容例]

- ・ 調査研究計画の策定と実施  
(調査研究目的と対象、調査研究方法とスケジュール、人員など)
- ・ 関連機関や団体との連携
- ・ 報告書の作成や展示、ホームページでの活動成果の公開

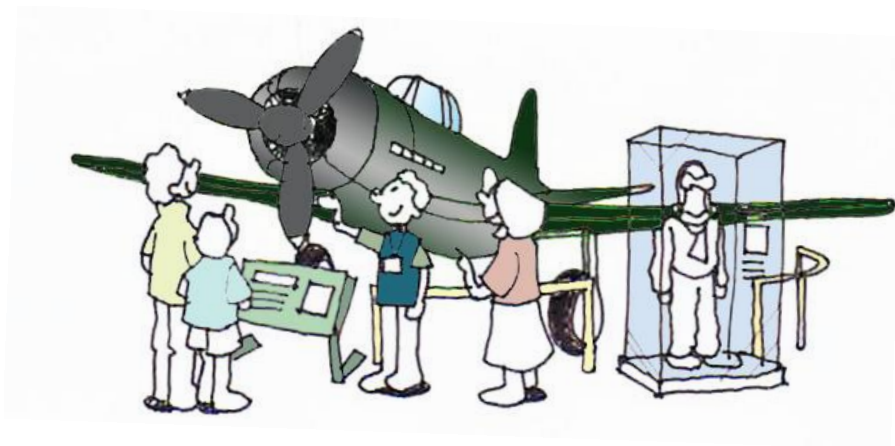


### ③ 展示・公開活動

展示内容の更新や企画展示の開催など、利用者の期待に応える展示に努めます。

[主な活動内容例]

- ・ 展示更新の企画と実施
- ・ 企画展の企画と実施
- ・ 展示のガイド及び解説
- ・ 展示運営



### ④ 拠点活動

周辺に点在する遺構を含む一帯をフィールドミュージアムとして位置づけ、効果的に機能させます。

[主な活動内容例]

- ・ 拠点施設のガイダンス機能の整備
- ・ 遺構の整備(サイン、パネル、安全対策など)
- ・ 移動ルートの整備(道路・通路整備、植栽整備、照明灯など)
- ・ フィールドミュージアムとしての見学コースの策定と実施



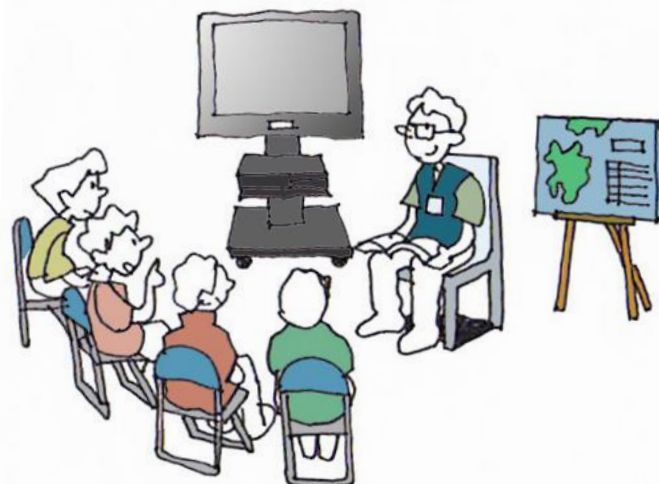


## ⑤ 教育・普及活動

「平和の大切さと命の尊さ」を学ぶ機会の設定に努めます。

[主な活動内容例]

- ・ 講演会や朗読会などのイベントの企画と実施
- ・ コンサートや物販などのチャリティーイベントの開催と実施
- ・ 国際交流イベントの企画と実施
- ・ 戦時下の暮らし体験イベントの企画と実施
- ・ 子供解説員の養成



## ⑥ 情報発信・交流活動

宇佐ならではの観光スポット、周遊コースを情報提供することで、快適で有意義な空間づくりや観光産業の活性化を図ります。

[主な活動内容例]

- ・ 市の策定する観光プランとの連携
- ・ 周辺観光インフォメーション機能
- ・ 飲食物販等のサービスプランの策定と実施
- ・ シーズンイベントやスポットイベントの企画と実施
- ・ 利用者受け入れ設備の整備
- ・ 多彩な広報戦略の企画と実施



---

## 2. 展示計画

---

### (1) 展示の方針

**宇佐海軍航空隊を中心とした「戦争の歴史」をわかりやすく公開し、「平和の大切さと命の尊さ」について考える展示をめざします**

#### ① 「宇佐海軍航空隊の歴史」を伝える

長年にわたり収集してきた遺物や体験者の証言などの貴重な資料をもとに、宇佐海軍航空隊の歴史を展示します。広大な水田地帯を造成し練習航空隊として開隊した経過や、実戦部隊となり多くの若者がこの地から出撃し帰らぬ人になったこと。また、甚大な被害を及ぼした空襲など、戦時中のできごとが宇佐の風景や人々の心に深い傷跡を残したことなど、「戦争の歴史」を伝えます。

#### ② 「平和の大切さと命の尊さ」を考えるきっかけを提供する

「平和」や「命」について利用者とともに考えるミュージアムをめざします。戦争や宇佐海軍航空隊を知らない世代の人たちが実感をもって考えることができるよう、戦時中の国際関係や日本国内における社会的風潮などを理解し、戦時中のできごとや人々の心境などを自分に置き換えて想像し、「平和の大切さと命の尊さ」を考える展示を行います。

#### ③ フィールドの「戦争遺構と結びつける」機能を持たせる

宇佐に現存する数多くの遺構は、単なる戦争の傷痕ではなく、屋外にある重要な実物資料ととらえます。展示は本施設で終結するのではなく、フィールドに点在する遺構と有機的に結びつけることで、フィールドの中核となる施設として機能させます。

## (2) 展示の基本的な考え方

### 広大な田園地帯に海軍航空隊が開隊され、 そして戦争遺構が残された、宇佐ならではの展示を行います

#### ① 日本、世界の時勢と関わりを持つことになった宇佐

のどかな田園地帯に海軍航空隊がつくられ、空襲で荒れ野となった後、住民の努力で元の姿に復活させたことは、宇佐の戦後復興の大きな特徴です。

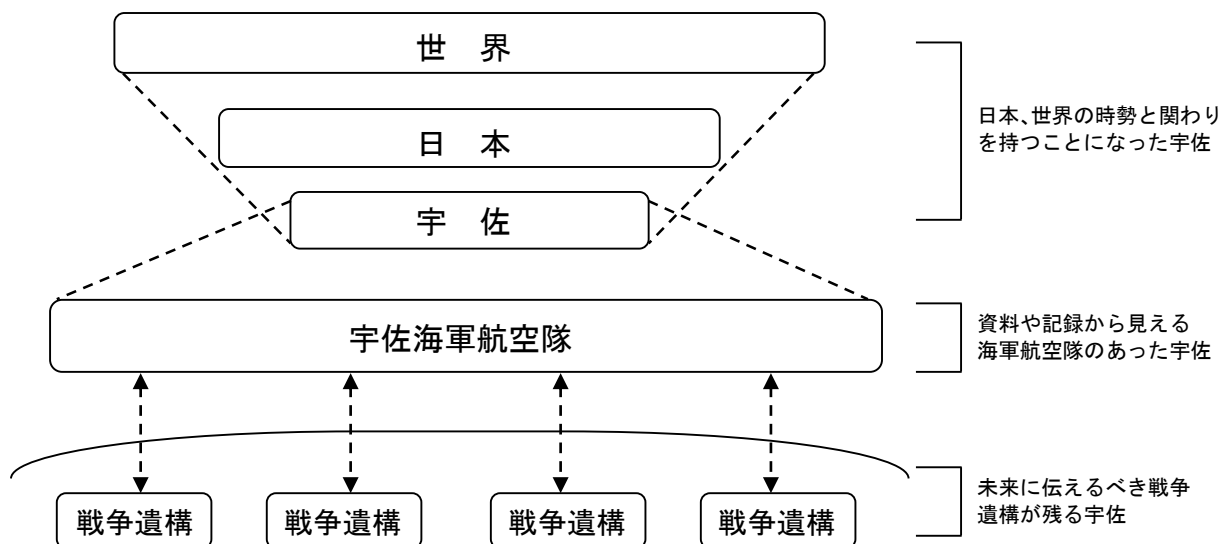
当時の日本、世界の時勢に対しての関わりや、戦争に関わる宇佐の歴史を伝えます。

#### ② 資料や記録から見える海軍航空隊のあった宇佐

これまでの収集活動により、宇佐海軍航空隊に関する遺物や体験者の証言など、貴重な資料や記録が保存・保管されています。展示では、資料や記録を中心に、海軍航空隊があったまちの歴史を伝えます。

#### ③ 未来に伝えるべき戦争遺構が残る宇佐

フィールドに現在でも残る掩体壕や通信室、海岸で目にする宮熊沖の標的、市道として使われている滑走路跡など、遺構が暮らしの中に残されていることも大きな特徴です。展示の中で関連する遺構を紹介し、現地へと誘導します。



### (3) 展示の構成

#### A. 導入展示

～「戦争の歴史」への入り口～

展示内容に興味をもってもらい、より理解してもらうために、展示の導入として印象的なゾーンを配置します。幅広い年代の方々が一様に理解できる演出とし、今から展開される展示への興味を喚起させます。



#### B. 宇佐海軍航空隊の記録

～時間軸に沿って宇佐海軍航空隊の歴史を紹介する～

宇佐海軍航空隊の開隊から終戦、そして現在までの時間軸を基本に宇佐海軍航空隊の歴史を紹介します。宇佐海軍航空隊で何が行われ、何が残り、どのような人たちがここで過ごしたかを紹介します。



#### C. 平和への誓い

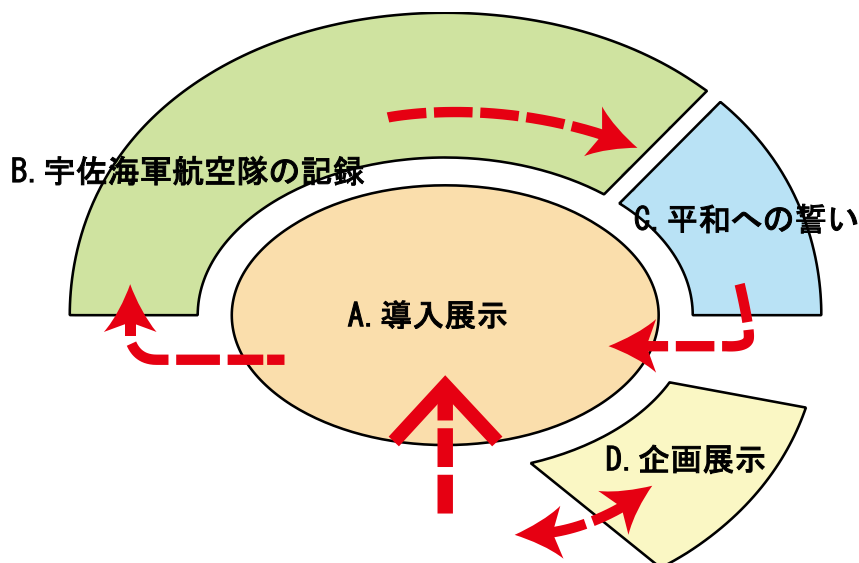
～「平和の大切さと命の尊さ」について感じたことや考えたことを記録する～

展示内容を総括し、平和を守ることの意味や一人ひとりが持つ命の尊さを確認していただくゾーンです。現在の気持ちや考えを記録し、利用者自身の記憶に残してもらいます。本ゾーンには、情報検索や映像ライブラリーなどの機能も備えます。



#### D. 企画展示

古代から近代までの「宇佐の戦いの歴史」をテーマにした企画展を計画します。また、宇佐海軍航空隊や大戦のクローズアップ展示など、戦争や平和に関するさまざまなテーマでの展示も行います。他館から借用した資料の企画展なども行います。



## ■展示構成表(案)

ゾーン名称	コーナー名称	ねらい	内容	主な展示物・手法	
<b>A. 導入展示</b>		「戦争の歴史」への入り口として、今から展開される展示への興味を喚起させる。	展示の導入として印象的な展示を演出する。		
<b>B 宇佐海軍航空隊の記録</b>	<b>1. 開隊</b>	①近代日本の歩み	近代日本の戦争の概略を伝える。	近代日本の戦争史を伝え、世界・日本・宇佐の視点から紹介する。	・近代日本戦争史グラフィック ・日本と世界の関係地図
		②軍と誘致	なぜ宇佐が選ばれたのかを伝える。	宇佐がなぜ選ばれたのか、また名称の由来などを紹介する。	・軍備計画グラフィック ・宇佐選定グラフィック
		③航空隊施設	施設の全体概要を伝える。	施設建設や、盛大に行われた開隊式について紹介する。	・航空隊全体模型 ・開隊式グラフィック ・実物資料
	<b>2. 訓練</b>	①艦爆と艦攻	当初は練習航空隊だったことを伝える。	艦上爆撃機と艦上攻撃機の使用目的や性能の違いを紹介する。	・艦爆・艦攻模型 ・航空機グラフィック ・実物資料
		②訓練	航空隊の訓練内容を伝える。	航空隊の訓練で高度な技術訓練や、隊員の日常、実像について紹介する。	・訓練の内容グラフィック ・訓練生の実像グラフィック ・実物資料
		③真珠湾攻撃	真珠湾攻撃に宇佐の航空隊出身者が参加していることを伝える。	真珠湾攻撃に参加する艦上攻撃隊が宇佐で訓練していたことや、「蒼龍」「飛龍」の飛行隊が宇佐に凱旋したことを紹介する。	・真珠湾攻撃グラフィック ・空母「翔鶴」「瑞鶴」グラフィック ・「蒼龍」「飛龍」グラフィック
	<b>3. 特攻基地</b>	①掩体壕	掩体壕の概要を伝える。	本土空襲に備え掩体壕が造られたことや、各掩体壕に格納された飛行機について紹介する。	・掩体壕の目的としくみグラフィック ・掩体壕の種類と分布グラフィック ・実物資料
		②神雷部隊	人間爆弾「桜花」の特攻隊が宇佐に来たことを伝える。	第721海軍航空隊について、宇佐での出撃延期やその後の結果などを紹介する。	・神雷部隊グラフィック ・「桜花」原寸模型 ・実物資料
		③八幡護皇隊	神風特別攻撃隊(八幡護皇隊)が宇佐から出撃したことを伝える。	八幡護皇隊の編成、出撃、解隊までの経緯と結果、特攻隊員のエピソードなどを紹介する。	・特攻作戦と八幡護皇隊グラフィック ・特攻隊員エピソード ・実物資料
	<b>4. 空襲</b>	①兵士と宇佐の人々	航空隊員と住民の交流の様子を伝える。	若い兵士が集結し、まちが活気に溢れていたことを紹介する。また兵士の下宿先でのエピソードや住民との交流についても紹介する。	・兵士の日常と宇佐のまちグラフィック ・交流エピソード ・実物資料
		②空襲	海軍航空隊施設を狙った空襲だったことを伝える。	戦時中の空襲の内容と被害状況、3月18日から始まった空襲の詳細について紹介する。	・空襲記録グラフィック ・宇佐爆撃映像コーナー ・実物資料
		③終戦と復興	まちの復興について伝える。	戦前・戦後・現在のまちの風景を写真で比較しながら、宇佐が復興したことを紹介する。	・小倉陸軍工廠糸口山製造所グラフィック ・復興グラフィック ・実物資料
	<b>5. ヒック展示</b>	①宇佐の戦いの歴史	宇佐周辺で起こった戦いの歴史を伝える。	様々な時代の戦いの歴史を紹介する。	・グラフィック ・実物資料
	<b>C. 平和への誓い</b>	①平和と命のメッセージ	平和の大切さと命の尊さを再確認する。	展示を見た今の気持ちを記録するコーナー。記録することで、来館者自身の記憶に残し、また他の来館者にその情報を発信する。	・メッセージ映像 ・メッセージ入力装置
		②情報検索コーナー	戦争遺構や国内外の戦争の情報を閲覧できる。	戦争遺構の紹介と現地案内情報のほか、展示資料や収蔵資料をアーカイブ化し、調べ学習に対応する。	・情報検索装置 ・映像閲覧ブース
③ライブラリーコーナー		戦争遺構や国内外の戦争書籍を閲覧できる。	戦争や平和に関する書籍や研究報告書などを所蔵した情報ライブラリーコーナーを設置。調べ学習に対応する。	・関連書籍 ・ラウンジ	
<b>D. 企画展示</b>				・ハイケース、ローケース ・組み換え式パネル 等	

※この展示構成表は参考案です。ゾーン以下のコーナー構成やねらい、内容や展示手法については基本設計において十分な検討を重ね決定していきます。

---

## 3. フィールド展示計画

---

### (1) フィールド展示の方針

#### 充実した見学の提供を目指します

宇佐海軍航空隊跡地全体のフィールドを館外展示対象とし、ここに点在する遺構を実物展示資料として、館内展示との一体化により、相乗効果を図ります。

##### ① 遺構の整備

必要に応じて当時の状態を再現するための補修を行うほか、安全性を確保するための柵の設置や立入空間の整備を行います。また、名称表示や解説板などの整備も行います。

##### ② 見学エリアの整備

見学者の安全で快適な移動を考慮し、道路整備や植栽整備、誘導表示や照明の設置などを行います。また、適所に駐車場や駐輪場を確保します。

##### ③ 見学コースの策定

遺構見学前の利用者には、常設及び企画展示またはオリエンテーションなどによって、予備知識を提供し、理解を深める見学へと導くように努めます。

見学コースの策定にあたっては、利用者の見学時間や移動手段などにも配慮します。

##### ④ ボランティアなどの人的支援の構築

遺構への誘導や、現場での解説のほか、安全で快適な見学ツアーのための総合的な支援を行う専任者を用意します。

##### ⑤ モバイルを活用したガイドシステムの整備

モバイルによる情報提供など、フィールドでの案内や解説を手軽に行うことができるシステムを整備します。

※モバイルとは移動できる、動きやすい、携帯できるといった意味の英単語。ここでは、携帯電話やスマートフォン、携帯端末等の小型で持ち運びができ、持ち運び中に通信可能な機器を指します。

## (2) 遺構の整備

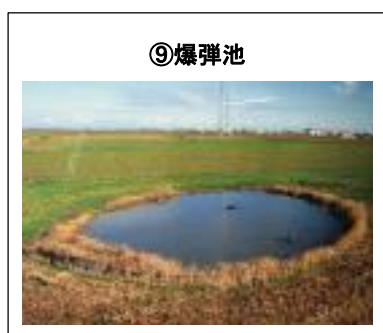
屋外に点在する遺構は、実物展示資料と考えます。これらを損傷・劣化させることなく、保存環境に留意し、最適な状態で後世に受け渡していく責任があります。また、教育的効果や展示演出効果を踏まえた考証再現も検討する必要があります。さらには、監視の目が行き届かない場所であることから、安全な見学を確保するための整備も求められます。

遺構の整備は、順次現状維持を原則とした整備を行い、すべての遺構の見学を目指しますが、市指定史跡である5カ所と市の登録文化財である1カ所の計6カ所を先行して整備します。

### ■先行して整備すべき遺構

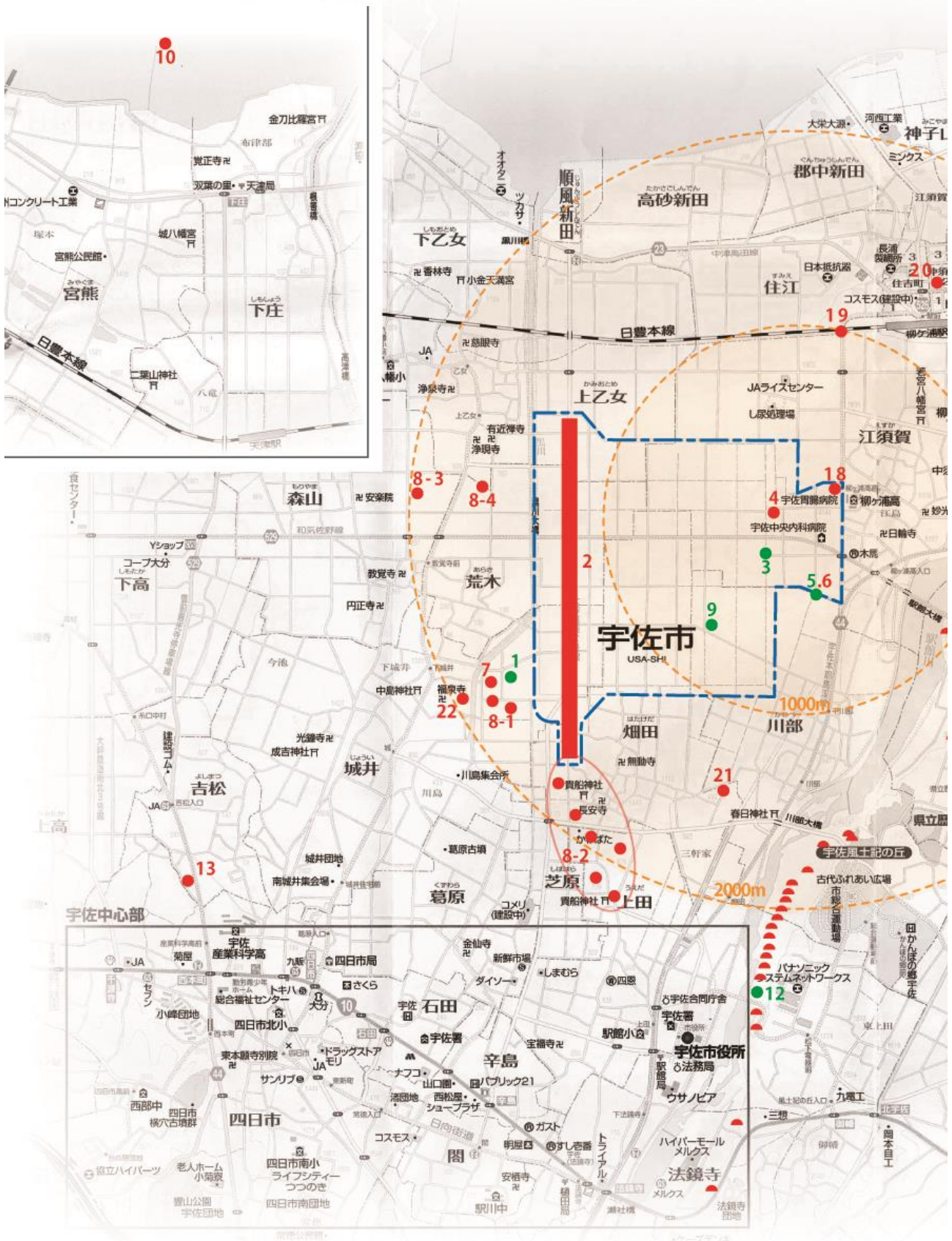
番号	施設名称	所在地	
1	城井1号掩体壕	大字城井	市指定史跡
3	落下傘整備所(レンガ建物)	大字江須賀	市指定史跡
5	半地下式コンクリート造建物 (配水場跡)	大字江須賀	市指定史跡
9	爆弾池	大字川部	市指定史跡
12	高居地下壕	大字上田	市指定史跡
14	生き残り門 (蓮光寺の山門)	大字江須賀	市登録文化財

※番号は「宇佐海軍航空隊跡保存整備計画書」内指定番号による





■先行して整備すべき遺構位置図





宇佐海軍航空隊敷地

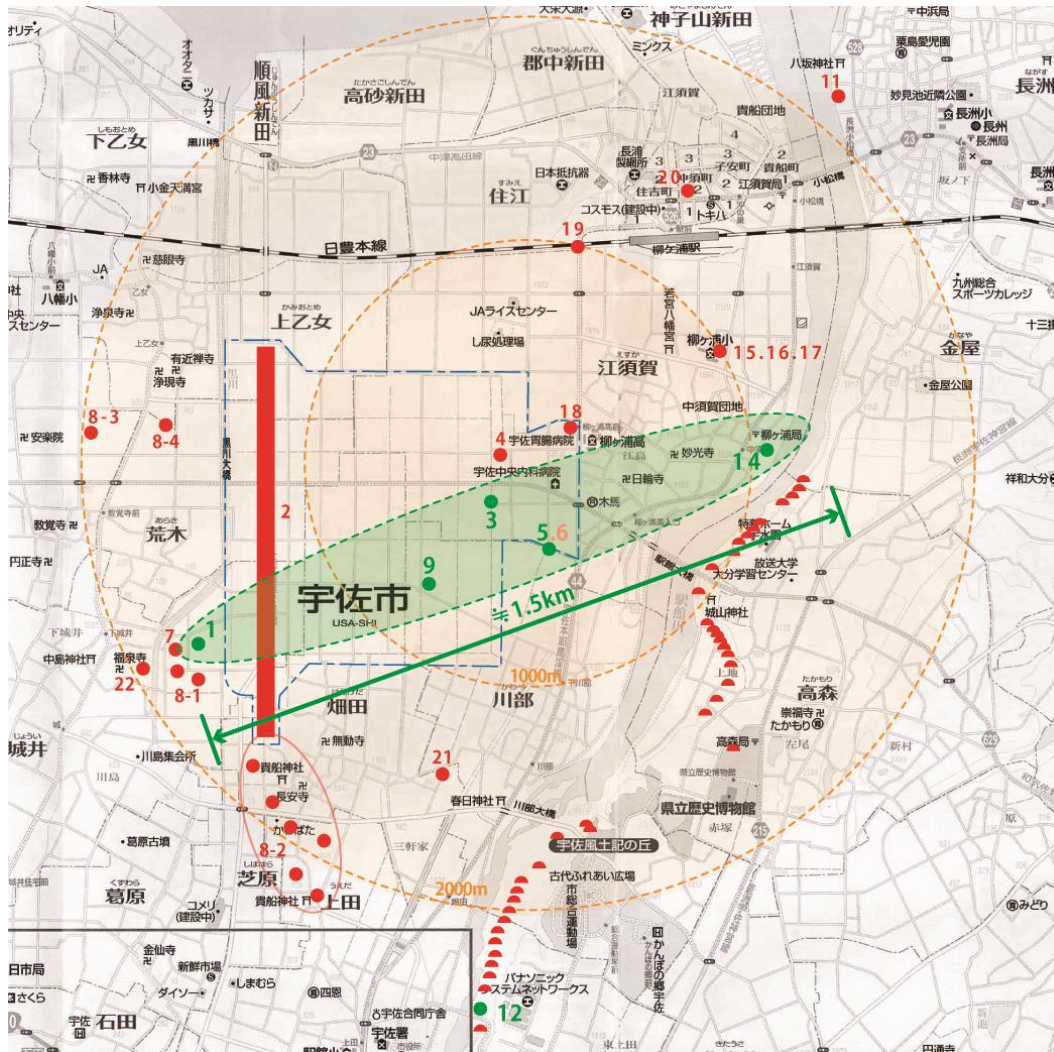


1. 城井1号掩体壕
2. 滑走路跡
3. 落下傘整備所(レンガ建物)
4. エンジン調整室
5. 半地下式コンクリート造建物(配水場跡)
6. 配水場附属施設
7. 城井2号掩体壕(仮称)
- 8-1. その他掩体壕(城井地区2基)
- 8-2. その他掩体壕(畑田地区2基)
- 8-3. その他掩体壕(森山地区1基)
- 8-4. その他掩体壕(上乙女地区無蓋掩体壕1基)
9. 爆弾池
10. 艦爆標的
11. 海軍棧橋
12. 高居地下壕
13. 機銃掃射の弾痕
14. 生き残り門(蓮光寺の山門)
15. 航空隊正門
16. 柳ヶ浦小学校 柳田清雄の碑
17. 柳ヶ浦小学校 機銃掃射の弾痕
18. 旧宇佐海軍航空隊 忠魂碑
19. 航空隊踏切
20. 大分憲兵隊柳ヶ浦分遣隊跡
21. 畑田地下弾薬庫
22. 城井掩体壕型弾薬庫

※緑●：先行して整備すべき遺構

### (3) 見学のための整備エリア

宇佐海軍航空隊跡地から離れた(徒歩では困難)高居地下壕を除く5つの遺構のある一帯を見学エリアとします。見学エリアの遺構は、名称表示や解説板、安全策などの整備を行います。また、遺構間の移動ルートの整備も行います。



● 見学エリア ※緑●：先行して整備すべき遺構

#### ■移動ルートの整備

見学者は、それぞれの移動手段と移動ルートで戦争遺構を巡ります。広範で住宅地域も重なっているフィールド内で混乱なく移動し、しかも安全で快適な見学ができるように可能な限りの整備が必要となります。

- ・ 混乱の無い移動 → 誘導表示計画
- ・ 安全な移動 → 道幅・路面整備、交通表示計画
- ・ 快適な移動 → 駐車(輪)場・トイレの確保、植栽等景観計画

## (4) 見学コースの策定

館内展示と一体化を図る遺構見学は、宇佐ならではの特徴となる重要な活動となります。幅広い利用者の快適で充実した見学コースを提供する必要があります。見学コースを策定するにあたって、見学目的や見学時間、参加者層や利用者の意向など、様々な条件が想定されます。

開館時には先行整備された遺構を中心とした見学コースを策定します。

### ①館主体の見学コース(案)

- ・一般の利用者に対して、フィールドガイド引率による定時刻実施の見学ツアー。
- ・徒歩による見学コース。
- ・フィールドガイドによる遺構解説有り。
- ・2～3カ所を巡る45分コースと5カ所を巡る90分コースを交互に実施。
- ・予約団体の場合は時間外にて特別対応有り。

### ②徒歩圏外の遺構見学(案)

徒歩圏外の遺構見学希望者に対しては、目的や滞在時間など利用者の条件にもよりますが、以下の移動手段の提供も検討します。

#### ○レンタル自転車の提供

利用者主体。館は自転車の管理のみを行います。

(観覧時間) 案内のみ

(移動手段) 基本利用者。レンタル自転車。

(運行時間) 17:30までに館へ返却

(案内) なし

#### ○フィールドツアーバスの提供

館主体。館のバスによるフィールド全体の見学ツアー。館の定時刻発着。降りられる遺構と降りられない遺構が出て来る。

(観覧時間) 90分コースのみ

(移動手段) 館所有の観覧バス

(運行時間) 午前1回、午後2回

(案内) フィールドボランティア添乗

#### ○フィールド循環バスの提供

バスのみ館主体。指定されたルートを循環するバス。希望の遺構近くで降車し、利用者による遺構見学。

(観覧時間) 自由

(移動手段) 館所有の複数の巡回バス(または複数の委託契約バス)

(運行時間) 20分おき

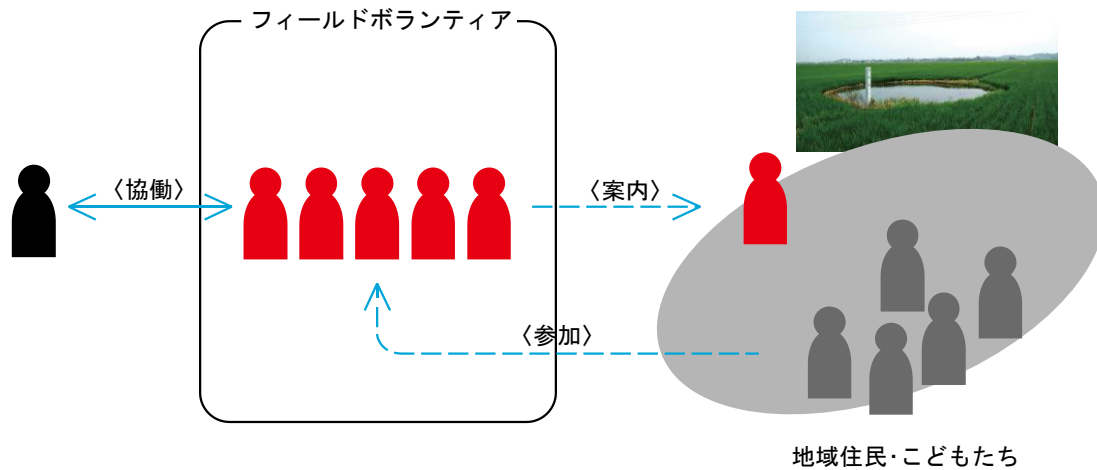
(案内) なし

## (5) 人的支援の整備

戦争遺構及び移動ルートを総合的に管理する専任者と、これを支援するボランティアにより、充実した見学の提供に努めます。

- ・ 破損や劣化の点検
- ・ 案内や誘導
- ・ 解説
- ・ 見学者の意向の把握

### ■フィールドボランティアイメージ





## (6) モバイルを活用したガイドシステム

拠点施設と点在する遺構を一体化する解説計画が求められます。その手法としては、人的解説、解説板や解説シート、映像・音声解説装置などが考えられ、それぞれの遺構を訪れた利用者がモバイルで解説を受けられるシステムの導入も検討します。

### ■モバイル活用イメージ

○マップにかざして遺構の巡り方を知る



○遺構の詳細情報を知る



遺構のポイント表示



ポイントの案内情報表示



詳細情報

写真や動画

口コミや感想

ナビゲーション

---

## 4. 施設計画

---

### (1) 施設計画の方針

#### 市民・利用者にかかれた平和ミュージアム

市民や利用者の主体的な活動や交流の場となることを基本に据え、子どもたちから高齢者まで多様な人々が、いつでも立ち寄りやすくまた気軽に参画しやすい開かれた施設計画を行います。

##### ①本物が体験できる施設

「平和の大切さと命の尊さ」を考える機会を提供する場として、宇佐平野に残された戦争遺構を見学しやすい立地とします。

##### ②アクセスが良く、周辺環境に配慮した施設

周辺道路からのアクセスが良いこと。また、周辺との一体感のある景観を重視した施設とします。

##### ③資料館としての性格を考慮した施設

宇佐海軍航空隊に関わる資料を保管し公開する場としての性格を踏まえ、堅固な構造や必要な設備を持つ施設とします。

##### ④人にやさしい施設

身障者や高齢者が安心して、不自由なく利用できるユニバーサルデザイン、バリアフリーに十分配慮し、ノーマライゼーションの理念に則った施設とします。

##### ⑤環境にやさしい施設

自然に配慮した環境にやさしい施設づくりを行います。太陽光、太陽熱、風力などの自然エネルギーの活用や、雨水の利用などの技術導入も検討します。

##### ⑥維持管理及びライフサイクルコストに配慮した施設

合理的で効率的な構造・仕様となるよう検討するとともに、計画的な維持管理により、施設の長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコスト軽減を目指します。

※ノーマライゼーションとは、障害者や高齢者がほかの人々と等しく生きる社会・福祉環境の整備、実現を目指す考え方。またそれに向けた運動や施策なども含まれる。

※ライフサイクルコストとは、製品や構造物を取得・使用するために必要な費用の総額。企画・設計から維持・管理・廃棄に至る過程で必要な経費の合計額をいう。

## (2) 立地

資料館の立地は、広大な宇佐海軍航空隊跡地や散在する戦争遺構を考慮すると様々な立地が考えられます。基本構想での立地の考え方に基づき、資料館、遺構の一体化を図り、戦争の歴史を感じられる最適な立地を選定し、建設用地確保に向けた取組みを進めます。

### ■最有力候補地

最有力候補地としては、宇佐海軍航空隊平和ミュージアム（仮称）構想委員会の提言どおり、城井1号掩体壕付近が最適地であると判断します。

城井1号掩体壕は、複数の掩体壕が集中している地域にあり史跡公園として整備され、「平和ウォーク」「平和のともしび」といった活動の拠点として活用されています。この付近は、滑走路跡、爆弾池など複数の戦争遺構が近隣に点在し、遺構を巡る移動負担の軽減が可能であり、航空隊跡地を一望できる場所でもあることから、本物が体感できる場所として有力な条件を備えています。

交通アクセスの観点からは、主要幹線の一つである市道USAフラワーロード2号線からのアプローチが可能で利便性も良く、平野部に位置しているため、視認性も期待できます。また、住宅地と隣接していないことから、地域住民の生活に支障をきたすことなく、景観に配慮した資料館の建設が可能となります。

なお、城井1号掩体壕付近の用地取得については、地権者の同意や農業振興地域内であるため用途変更の手続きが必要となりますが、円滑に取得できるよう農業委員会など関係機関との協議を進めていきます。

財源確保の観点では、本施設建設のために積み立てられている宇佐航空隊史跡等保存事業基金を活用するほか、合併特例債など地方交付税措置のある有利な起債を活用することで、可能な限り一般財源の負担軽減に努めます。

※宇佐海軍航空隊平和ミュージアム（仮称）構想委員会（平成25年11月設立）

平和ミュージアムに関する事項を審議し、多岐に渡る意見を取りまとめ市に対して提言書を提出した。（平成26年12月）

委員構成：識見を有する者 3名  
市議会代表 2名  
市民団体代表 10名  
行政代表 2名

## ■宇佐海軍航空隊平和ミュージアム（仮称）構想委員会の提言内容（抜粋）

資料館の立地は、広大な宇佐海軍航空隊跡地や散在する戦争遺構を鑑みると様々な立地が考えられます。基本構想での立地の考え方に基づき、複数の候補地の特性を考慮し、最適な立地を選定していきます。

### ①本物が体感できる場

宇佐航空隊を感じられる場所か。戦争遺構が見えるか。遺構巡りなどの活動の拠点となりやすいか。既存イベントなどとの連携がとりやすいか。周囲の景観を損なわないか。等の観点で検証します。

### ②交通アクセスの利便性

主要道路から流入しやすいか。公共交通機関から近いか。地域住民が立ち寄りやすいか。地域の学校と連携がとりやすいか。等の観点で検証します。

### ③移動負担の軽減

先行して整備すべき遺構に近い。複数の遺構を巡ることができやすいか。その際に負担の少ない移動手段で遺構を巡れるか。等の観点で検証します。

### ④用地取得の可能性

予定地がどこの所有となっているか。用地変更の手続きが容易か。等の観点で検証します。

### ⑤財源確保の優位性

国・県等の補助制度の活用が可能な予定地か。等の観点で検証します。

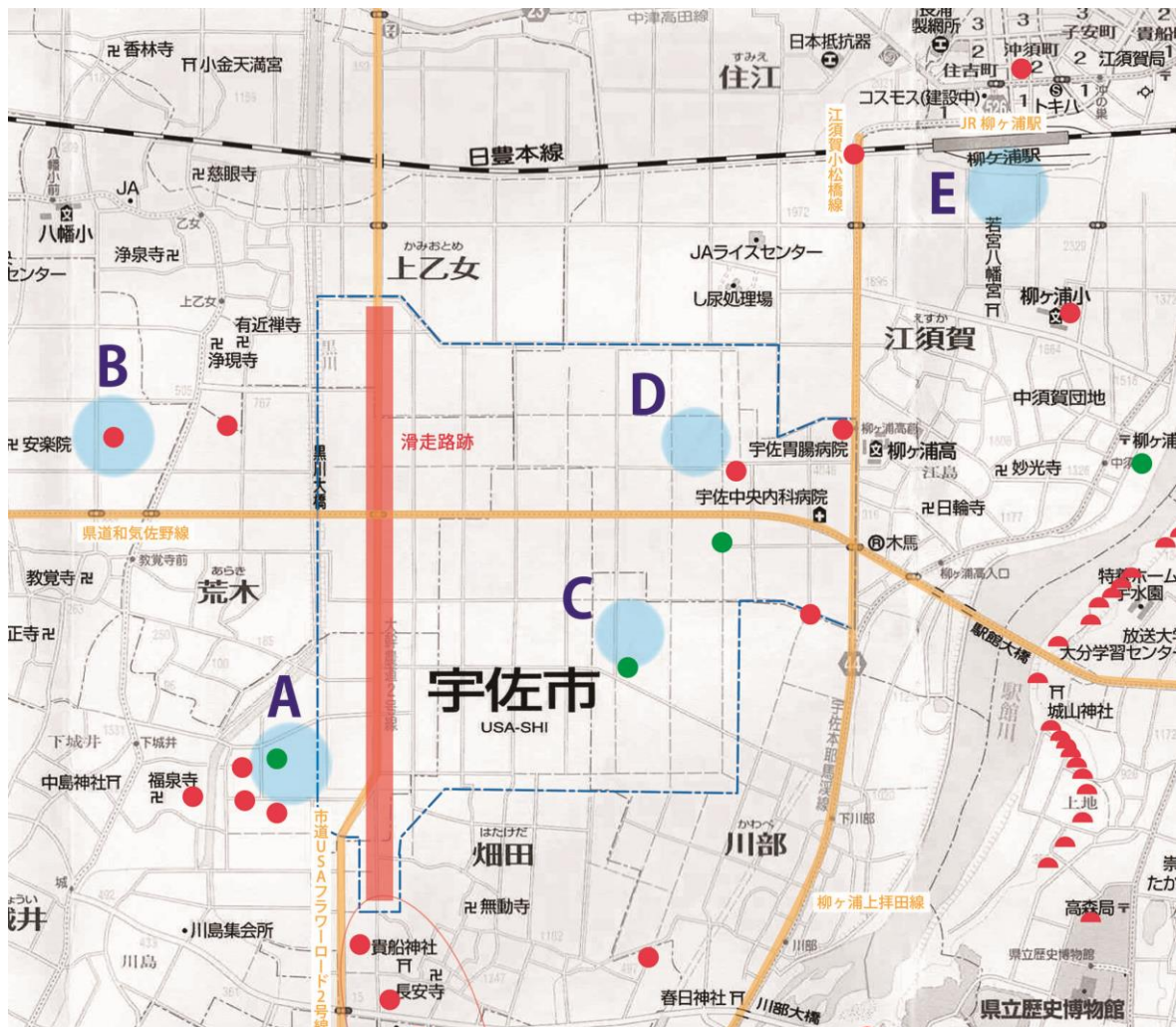


## ■立地候補地

立地候補地は、資料館、遺構の一体化を図り、戦争の歴史を感じられるとされる宇佐海軍航空隊跡地周辺を中心に選定します。数ある候補の中から、遺構周辺で資料館建設が可能とされる場所や活用可能な市有地、将来計画を鑑み以下の5カ所を検証します。

A	城井1号掩体壕付近
B	森山中型掩体壕周辺
C	爆弾池隣接地
D	航空隊跡地内（農村公園）周辺
E	JR柳ヶ浦駅南付近

## ■立地候補地位置図



●戦争遺構

●先行して整備すべき遺構

## ■候補地の特性と評価

### A. 城井1号掩体壕付近

#### ○特性

- ・市に現存する遺構の代表的な存在となる城井1号掩体壕と隣接した資料館が建設可能となり、利用者に与える印象は大きい。
- ・既に史跡公園整備化がされており、他の候補地と比較して認知度が高い。
- ・航空隊跡地、平野の風景を一望できる場所である。
- ・滑走路跡、爆弾池、掩体壕群の遺構が近隣にある。
- ・公共交通機関（駅）から離れた場所である。

#### ○評価

①本物が体感できる場	◎
②交通アクセスの利便性	○
③移動負担の軽減	◎
④用地取得の可能性	△
⑤財源確保の優位性	△

### B. 森山中型掩体壕周辺

#### ○特性

- ・現存する遺構として最大級である森山中型掩体壕と隣接した資料館が建設可能となり、利用者に与える印象は大きい。特に建造物の迫力は壮大であり、利用者が体で感じられるものが大きい。
- ・航空隊跡地や他の遺構との距離がある。
- ・住宅地が近いことや将来的に住宅の増加が想定される。
- ・公共交通機関（駅）から離れた場所である。

#### ○評価

①本物が体感できる場	◎
②交通アクセスの利便性	○
③移動負担の軽減	◎
④用地取得の可能性	△
⑤財源確保の優位性	△

※評価の記号については、「◎:優 ○:良 △:普」としてしています。

### C. 爆弾池隣接地

#### ○特性

- ・爆弾池と隣接した資料館が建設可能となり、利用者に与える印象は大きい。他の候補地と比較して、空襲の歴史を感じられる場所である。
- ・航空隊跡地の中心部であり、航空隊跡や平野の風景を一望できる場所である。
- ・城井1号掩体壕や滑走路跡、レンガ建物などの遺構が近隣に多い。
- ・農業振興地域の中心部にあたるため、市の施策との整合性が課題となる。
- ・農業者の支障となる恐れがある。
- ・主要道路からの導入路の整備が必要となる。

#### ○評価

①本物が体感できる場	○
②交通アクセスの利便性	△
③移動負担の軽減	○
④用地取得の可能性	△
⑤財源確保の優位性	○

### D. 航空隊跡地内（農村公園）周辺

#### ○特性

- ・近隣にエンジン調整室があることやレンガ建物、爆弾池などの遺構が近隣に多い。
- ・宇佐海軍航空隊の中枢部とされていた場所にあたる。
- ・航空隊跡地内であり、航空隊跡や平野の風景を一望できる場所である。
- ・市有地の有効活用により用地取得が容易である。
- ・住宅地が近い。

#### ○評価

①本物が体感できる場	○
②交通アクセスの利便性	△
③移動負担の軽減	○
④用地取得の可能性	○
⑤財源確保の優位性	○

※評価の記号については、「◎:優 ○:良 △:普」としてしています。

## E. JR柳ヶ浦駅南付近

### ○特性

- ・公共交通機関（駅）との隣接により、利便性や視認性に対する効果は大きい。
- ・駅周辺整備事業との連携により、相乗効果が期待できることや、助成金による部分的な財源の確保が期待できる。
- ・航空隊跡地や他の遺構との距離がある。

### ○評価

①本物が体感できる場	△
②交通アクセスの利便性	○
③移動負担の軽減	△
④用地取得の可能性	△
⑤財源確保の優位性	○

※評価の記号については、「◎:優 ○:良 △:普」としています。

## ■総合評価

立地は総合的な観点により、城井1号掩体壕付近が最適地であると判断します。

史跡公園として整備されている城井1号掩体壕は、他の掩体壕が集中している地域にあり、滑走路跡、爆弾池など複数の戦争遺構も近隣に所在し、航空隊跡地を一望できる場所にあります。この場所は、遺構巡りなど活動の拠点として活用可能であり、本物が体感できる場所として有力な条件を備えています。

交通アクセスの観点からは、主要幹線の一つである市道USAフラワーロード2号線からのアプローチが可能で利便性も良く、平野部に位置しているため、視認性も期待できます。また、住宅地と隣接していないことから、地域住民の生活に支障をきたすことなく、景観に配慮した資料館の建設が可能となります。

宇佐海軍航空隊平和ミュージアム（仮称）構想委員会提言

「宇佐市平和ミュージアム（仮称）基本構想・基本計画」（抜粋）

### (3) 規模と敷地

#### ①資料館の規模について

資料館は、広大な宇佐平野の景観に配慮した低層な建物とし、類似施設（下表参照）を鑑み延床面積を 3,000～3,500 m<sup>2</sup>とします。

類似施設事例は、戦争に関する資料を有する平和をテーマにした資料館施設で、市立（政令指定都市を除く）、町立により建築、運営を行っている館であり、複合施設ではなく単独館であることや、展示物に大型展示物を有することを考慮し、選出しています。

#### ■類似施設事例

施設名称	運営主体	開館年度	延床面積(m <sup>2</sup> )
予科練平和記念館	茨城県阿見町	平成 22 年	1,409
姫路市平和資料館	兵庫県姫路市	平成 8 年	1,139
舞鶴引揚記念館	京都府舞鶴市	昭和 63 年	992
呉市海事歴史科学館	広島県呉市	平成 17 年	9,628
大刀洗平和記念館	福岡県筑前町	平成 21 年	1,883
長崎原爆資料館	長崎県長崎市	平成 8 年	7,969
知覧特攻平和会館	鹿児島県南九州市	昭和 60 年	3,194
万世特攻平和祈念館	鹿児島県南さつま市	平成 5 年	818
ひめゆり平和祈念資料館	沖縄県糸満市	昭和 64 年	2,095
平均面積(m <sup>2</sup> )			3,236.3

#### ②アプローチについて

資料館への主要な車両動線は、市道 USA フラワーロードなど主要幹線からアプローチします。大型バスによる右左折や離合のできる道路幅が必要となります。また、歩行者アプローチも同じく市道 USA フラワーロードなど主要幹線から行うものとし、十分な幅の歩道が必要となります。

### ③駐車場について

資料館を訪れる際の、利用交通機関の分類比率\*を次のように算出しました。

(\*平成 24 年度大分県観光実態調査報告書 大分県内の交通手段より。)

- ・大型バス利用率：9% (貸切りバス・観光バス)
- ・自家用車利用率：84% (自家用車・社用車・公用車・レンタカー)
- ・公共交通機関等：7% (JR・路線バス・タクシー・バイクその他)

資料館の年間利用者数を 18 万人\*と想定します。

\*筑前町大刀洗平和記念資料館の入館者数：年平均 12 万人。

資料館規模が約 1.5 倍のため年間利用者を 18 万人に想定。

年間の開館日数を 300 日 (週 1 日・年末年始の休館) とすると、1 日平均 600 人の利用者が想定されます。ピーク時間帯にその半数の 300 人が同時に滞在する想定で算出します。

前述の資料館の同時滞在人数が 300 人であることから、

#### ○大型バス駐車場面積

$300 \text{ 人} \times \text{大型バス利用率 } 9\% \div 1 \text{ 台平均乗車人数 } 30 \text{ 人} = 1 \text{ 台}$

しかし、中学校の修学旅行の 2 校同時利用を想定すると、  
大型バス 4 台\*  $\times 2 \text{ 校} = 8 \text{ 台}$  の受け入れが必要となり、

(\*公立中学校の修学旅行平均人数 137 人。平成 20 年度修学旅行実施状況報告書より。)

大型バス専有面積は、 $100 \text{ m}^2$  (通路含む)  $\times 8 \text{ 台} = 800 \text{ m}^2$  となります。

#### ○一般車両駐車場面積

$300 \text{ 人} \times \text{自家用車利用率 } 84\% \div 1 \text{ 台平均乗車人数 } 1.5 \text{ 人} * = 168 \text{ 台}$

(\*旅行目的の乗用車平均乗車人員 1.525 人。国土交通省 2010 年度全国幹線旅客純流動調査より。)

一般車両専有面積は、 $30 \text{ m}^2$  (通路含む)  $\times 168 \text{ 台} = 5,000 \text{ m}^2$  となります。

大型バス駐車場と一般車両駐車場で  $5,800 \text{ m}^2$  程度の駐車場面積が必要となります。

### ④敷地の規模について

敷地には、資料館の建築面積 (平屋建てを想定し  $3,500 \text{ m}^2$ )、駐車場面積 (上限の  $5,800 \text{ m}^2$ )、その他にもエントランスアプローチや職員用駐車場、多目的広場、外構緑地などの面積を確保する必要があります。

敷地の規模は、余裕を持たせた配置を考慮し、その他部分の面積を建築面積と駐車場面積の倍程度と想定すると、おおむね  $20,000 \text{ m}^2$  の面積が必要と考えられます。

## (4) 施設の構成

### 6つのエリア

一般利用者が利用するサービスエリアと交流エリアを無料ゾーンに、常設展及び企画展を行う展示エリアを有料ゾーンとして構成を区分します。このほか収蔵エリアと調査・研究エリア、管理エリアを一般利用者が立ち入らないゾーンとして計画します。

#### ① サービスエリア

利用者が最初に訪れる空間であり、開かれた施設を象徴する明るく開放的な環境を整える。また、ミュージアムショップやカフェの配置を検討します。

#### ② 交流エリア

市民の活動と児童・生徒のクラブ活動を行える空間として整備します。利用の多目的性を考慮し、フレキシビリティを重視した設備を整えます。

#### ③ 展示エリア

複数の展示室に対して、それぞれの特性や目的に応じた環境を整えます。また、展示物の保護を図りながら、照明などの演出効果を高めます。

#### ④ 収蔵エリア

展示資料を文化財ととらえ、それにふさわしい保存環境を整備します。また、資料を安全に保管するため、材質・性質・状態に応じた保存環境を確保します。恒温・恒湿の収蔵庫として24時間空調も検討します。

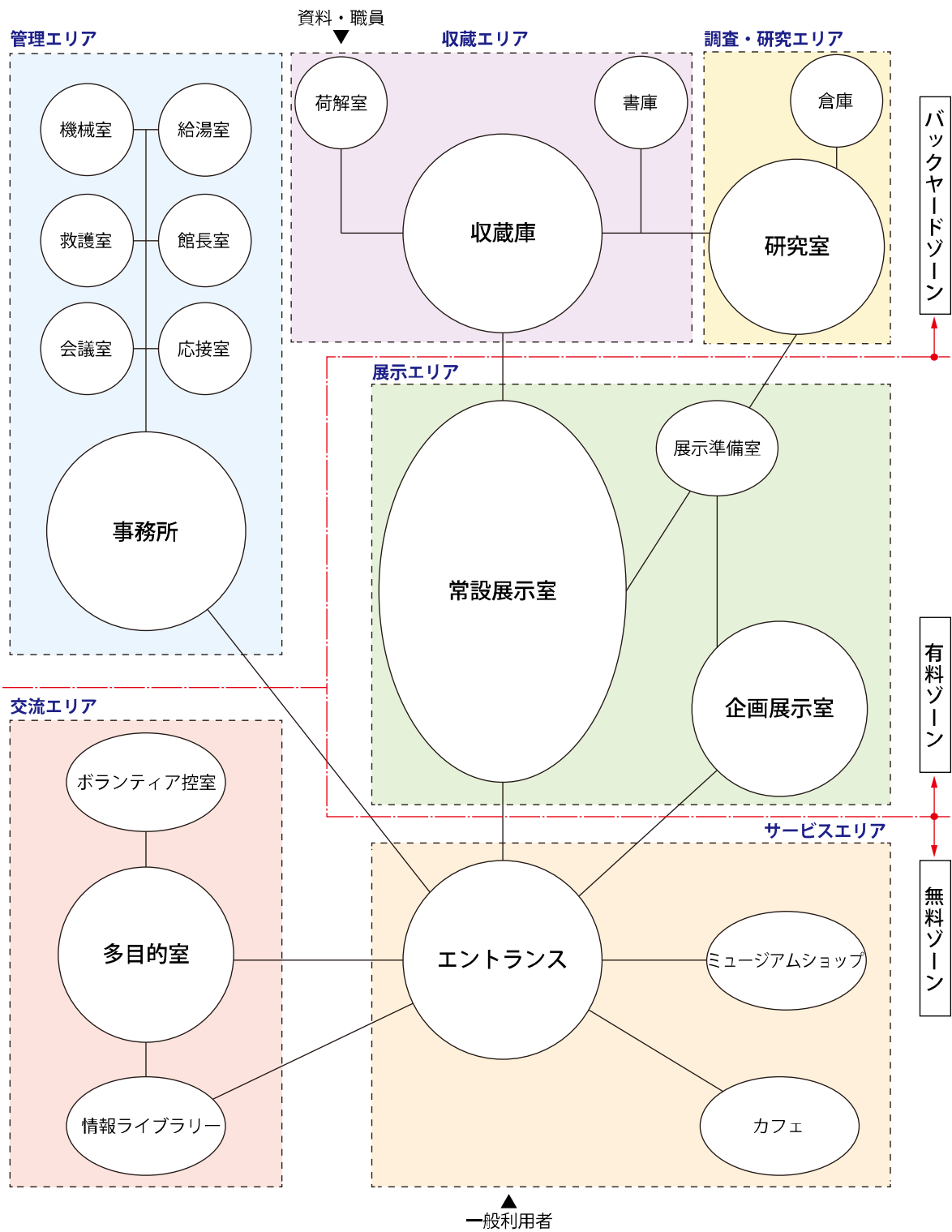
#### ⑤ 調査・研究エリア

調査・研究活動に対応した諸室、設備を整備します。市民との調査・研究活動の連携や一般の見学（バックヤードツアー）に配慮します。

#### ⑥ 管理エリア

活動全般を管理することから、利用者の入退館、利用料金の徴収、多様な案内の対応を配慮します。OAフロアの導入も検討します。

■ 諸室関連図





■諸室構成表(案)

エリア	施設構成		面積㎡ (エリア合計)
	室名	概要	
サービスエリア	エントランスホール	一般利用者を最初に迎える明るく開放的な空間。当館のテーマを印象づけるようなデザイン環境の中で、当館からのインフォメーション情報を提供するなどの趣向が想定される。	200
	ミュージアムショップ	市民参加のハートウォーミングな雰囲気を持つ親しみやすいショップ空間。施設にふさわしいミュージアムグッズをそろえる。	20
	カフェ	軽食主体の飲食スペースで、宇佐の郷土料理や市民の企画メニューで利用者をもてなす。	30
			250㎡
交流エリア	多目的室	展示内容に相応しいテーマの講習会や勉強会などを開催する。また、団体見学者のミーティングや高齢者などの休憩に利用する。修学旅行生の昼食の場としても利用する。	240
	ボランティア控室	館の運営に携わっているボランティアスタッフが作業や休憩などに利用する。	100
	情報ライブラリー	展示内容を補完する関係書籍や関係映像が閲覧できるスペース。	100
			440㎡
展示エリア	常設展示室	一般利用者を対象とする常設の展示室で、原寸大飛行機資料などの大型展示物や歴史資料を中心に展示構成する。	900
	企画展示室	一般利用者を対象に、期間を設けて様々なテーマで開催する展示スペース。	250
	展示準備室	主に企画展のための展示の準備やその保管、展示什器などの保管を行う。	50
			1200㎡
収蔵エリア	収蔵庫	実物資料を中心に管理・保管するスペース。	450
	書庫	研究書や報告書、その他専門図書を収納するスペース。	90
	荷解室	収集した資料を一時保管したり、荷解きするスペース。	100
			640㎡
調査・研究エリア	研究室	専門職員が調査・研究を行うスペース。	100
	倉庫	資料や書籍など、研究に使用する備品や企画展示用什器などを保管するスペース。	120
			220㎡
管理エリア	館長室	館長の執務スペース。	30
	事務室	事務の執務を行うスペース。	80
	会議室	諸活動のための会議などを行うスペース。	100
	応接室	来客用のスペース。	30
	給湯室	-	10
	救護室	-	10
	機械室	-	50
			310㎡
その他	共有スペース一部	廊下・階段・トイレ・その他倉庫等	340
			340㎡
合計			3400㎡

\*青㎡数値は参考数値

※この諸室構成表は参考案です。エリア以下の必要諸室や用途、面積は基本設計において十分な検討を重ね決定していきます。

---

## 5. 管理運営計画

---

### (1) 管理運営の方針

管理運営計画は、観覧や参加などで訪れる利用者の立場に立って適切に行われることを目的に策定します。平和ミュージアムの諸活動を円滑に推進させ、利用者の満足度を高め、感動を創出する「ミュージアム・マネージメント」を参考にした管理運営を展開していきます。

※ミュージアム・マネージメント(博物館経営)とは、「それぞれの施設が掲げる設立目的や使命を達成するために、ヒト・モノ・カネなどの経営資源をタイミング良く配分し、効率良く事業の展開を運営する手法」で、利用者側に立った適切性を重視します。

#### ① 利用者の意向に対応する運営

利用者の意向を収集・分析し、より効果のある運営に努めます。

#### ② 開かれた運営

ボランティアや企業、関係団体などが、活動に参加協力ができる開かれた運営をめざします。

とくに子供たちを含めた地域住民の積極的な参加を促し、地域密着型のミュージアムづくりに努めます。

#### ③ 次代に伝えるための運営

未来へ伝えていくための人材育成や世代間交流などを積極的に展開する運営に努めます。

#### ④ 戦争遺構と一体化した運営

拠点施設とフィールドを一体化する運営計画によって、利用者の意向に的確に応え、快適で充実した環境の提供に努めます。

## (2) 運営方式

運営方式としては、自治体の直営方式と指定管理者方式が想定されます。指定管理者方式については、管理運営業務のすべてを委託する場合と一部業務を委託する場合が考えられます。

各方式の特性を考慮しながら、以下の3つ(自治体直営方式・全面委託方式・部分委託方式)の中からより良い方式をとっていきます。

### ■ 直営方式と指定管理者方式の比較

自治体直営方式		基本的にすべての管理運営業務を自治体が直接行う方式。 (ただし、清掃、警備などの施設の維持管理については、民間に業務委託されるのが一般的)
指定管理者方式	全面委託方式	すべての管理運営業務を、指定管理者(公益法人や民間企業、NPOなどの法人その他団体)に委ねる方式。 指定管理者は公募または特命(非公募)で選定され、指定管理期間は3～5年が一般的であるが、それ以上の設定も可能である。 利用料収入などを指定管理者の収入にできる利用料金制や、入館収入・入館者数などに応じたインセンティブ〈推奨〉を付与するしくみを導入することも可能である。
	部分委託方式	管理運営業務の一部を自治体直営で行い、一部を指定管理者に委託する方式。 例えば、調査研究や資料の収集保存などの学芸業務を自治体直営で行い、広報業務や施設の維持管理業務などを指定管理者に委ねる方法などがある。

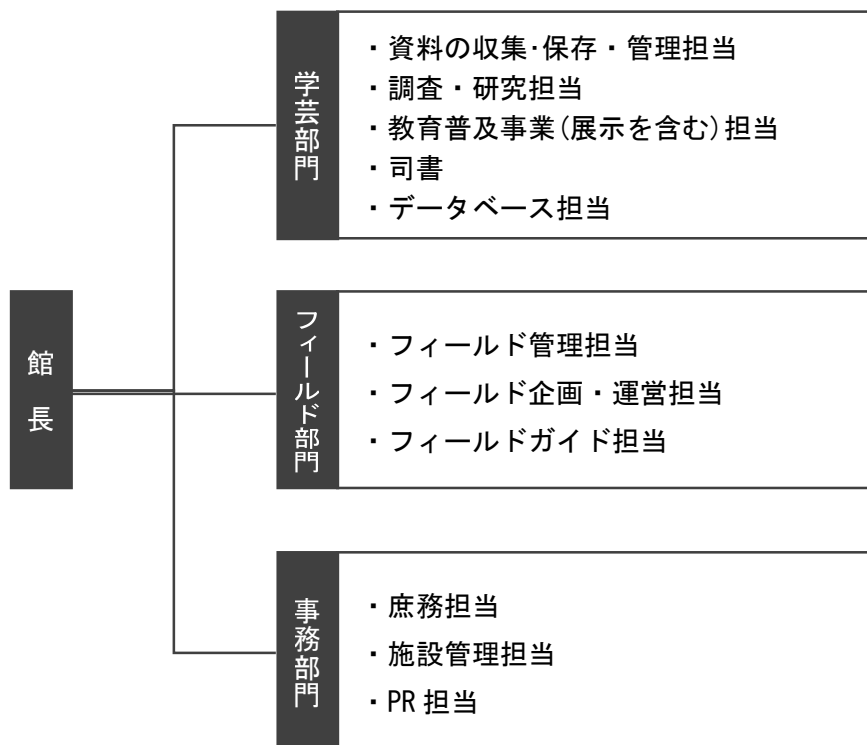
### (3) 運営体制

#### ① 運営組織

運営組織は館内と館外に分けられます。館内組織は活動の専門的事項をつかさどる専門職員の属する学芸部門、学芸部門の活動を円滑に進めるための庶務や施設管理担当の事務部門があります。また本施設の特徴であるフィールド展示の活動があるため、フィールド担当部門を設けます。これらは総括責任者の館長のもとに組織構成されます。

各部門の業務をどのように分化するかは施設の規模や求められる活動内容、業務の実態によって異なるため運営の状況に応じた調整が必要となります。

#### ② 運営体制案



### ③ 職業分掌

#### ○館長

館務を掌握し、所属職員を監督し、館の任務の達成に努めます。

#### ○学芸部門

資料の収集、保存、調査研究、展示その他これらと関連する事業について専門的事項をつかさどる部門です。その業務の性格は以下の通りです。

##### [技術者の性格]

- ・資料の収集
- ・資料の分類整理・保存

##### [研究者の性格]

- ・資料に関する調査研究
- ・戦争遺構に関する調査研究

##### [教育者の性格]

- ・資料の展示公開とその更新
- ・フィールド見学コース連携企画
- ・イベントなどの各種教育普及事業の企画と運営

#### ○フィールド部門

フィールドミュージアムとしての活動を円滑に展開するために、フィールド専任担当部門を設けます。この部門は、学芸部門と事務部門と連携するだけでなく、フィールドで活動するボランティアの指導と育成にも携わります。

- ・他の部門との連携による見学コースの策定
- ・ボランティアとの連携による見学ツアーの実施
- ・フィールドでのイベントの告知、周辺地域との調整
- ・災害や事故への緊急対応
- ・ガイドの育成
- ・フィールド内の情報メディアの管理
- ・レンタルサイクルなどフィールド内使用の備品管理

#### ○事務部門

拠点施設及び戦争遺跡を含めたフィールド運営の統括、施設の維持管理、予算経理を担当します。一般事務のほか、広報・利用者サービス、専門職員の業務補助、さらにはフィールド全体の監視や清掃、安全点検、案内やミュージアムショップ関連の業務など多岐にわたります。

その主要な業務内容は以下の通りです。

- ・職員の人事、服務、福利厚生に関する業務
- ・拠点施設及び戦争遺跡の建物や環境、安全を維持するためのメンテナンス
- ・拠点施設の空調管理、清掃、警備、受付案内などに関する業務
- ・予算、決算その他の会計業務

- ・ 嘱託職員や日々雇用のスタッフ、ボランティアの管理
- ・ 観光会社やマスメディアなどとのタイアップやPR活動
- ・ 利用者の観覧行動や利用状況、意向などの情報収集と分析
- ・ 修学旅行や自衛隊などの各種団体に対するPR活動

#### (その他)

- ・ ミュージアムショップ運営
- ・ カフェ運営
- ・ メンテナンス
- ・ 夜間、休館日の警備
- ・ 清掃
- ・ 自販機管理

## (4) 開館形態

### ① 開館日・休館日

開館日は、季節や曜日、修学旅行シーズン等を考慮し、多くの人が利用できる日を設定します。

なお、展示や施設の適切な管理を行う必要があることから、一定の休館日や資料整理日として特別休館日を設定します。

### ② 開館時間

開館時間は、多くの人が利用しやすい時間を管理運営の効率性を考慮して設定します。

企画展、イベントの開催状況などに応じた利用時間の延長や平日夜間の講座開催など、利用者の意向を把握しながら柔軟で弾力的な開館時間を設定します。

### ③ 利用料金

館内展示の観覧については、原則として有料とします。利用料金は、類似施設の料金を参考としながら、市内の小中学生の無料化や、修学旅行団体などの団体に対しての団体割引料金を検討し、設定します。

## **(5) 館外組織**

館外組織としては、館の運営やさまざまな活動に対する協力、支援などを行う友の会などの組織の設立が想定されます。また、各種団体との連携が必要とされます。

### **① 友の会組織**

継続的な利用者の拡大、安定した運営資金の確保を図る目的で友の会を設立します。友の会では、年会費による入会で、会員証を発行します。一年間の有効期間でフリー入場や会報の購読など各種サービスを提供します。

### **② ボランティア組織**

館の活動を支援いただくボランティア組織の設立を目指します。この組織は、館の活動に積極的に活動、協力し、知識を地域に還元することを目的とします。館内での展示解説、講座の講師、戦争遺構を巡る見学ガイドなど利用者の目線に近い業務を担っていただきます。

### **③ 各種団体との連携**

企画展や特別展などでの企画立案や情報協力、講座やイベントなどでの運営支援などに対し、専門的な知識を有する市民団体をはじめ、経験豊富な市民団体など関係団体と連携を図ります。



## 6. その他

### (1) 今後のスケジュール

#### ■全体スケジュール(想定スケジュールを含む)

		業務区分								
		1. 基本構想・計画	2. 測量設計、 用地造成設計	3. 用地取得、 造成	4. 施設関係設計 (本体施設)	5. 建設工事 (本体施設)	6. 展示関係設計	7. 展示関係作成、 設置	8. 関連施設整備 (航空隊遺跡関係)	9. 展示品収集
25年度	I	策 定								展示品収集
	II									
	III									
	IV									
26年度	I									
	II									
	III									
	IV									
27年度	I					基本設計		計画策定 整備方針		
	II									
	III									
	IV									
28年度	I	測量設計 造成設計	用地取得	基本設計				実施設計・整備		
	II									
	III									
	IV									
29年度	I		工事造成	実施設計		実施設計				
	II									
	III									
	IV									
30年度	I				契約	契約				
	II									
	III				建設工事	展示品作成・設置				
	IV									
31年度	I									
	II									
	III									
	IV									
備考							討委員会 活用計画 航空隊 宇佐海軍航	討委員会 資料収集 宇佐海軍航 空隊等		

## (2) 今後の課題

### ① 資料館建設準備室（仮称）の設置

資料館建設に向け、今後のスケジュールに沿った業務を着実に推進するための体制を整える必要があります。基本設計をはじめとする複雑な業務の遂行のため、資料館建設準備室（仮称）の設置が求められます。

### ② 資料の調査と展示情報の調査

収集済みの資料、収集予定や購入予定の資料の調査・分類が必要です。また、音声情報や映像情報などの展示情報の調査が必要です。

### ③ 展示内容と諸室構成の検討

本計画の展示計画では、構成するゾーンを示すに留めています。設計段階で資料調査に基づいた展示構成と展示演出を検討する必要があります。

また、展示内容と連携した展示室面積の決定や各諸室面積を検討し、資料館施設の規模の決定（延床面積の算出）が必要です。

### ④ 宇佐海軍航空隊整備計画との擦り合わせ

本計画のフィールド展示計画では、先行して整備すべき遺構を示しています。フィールド展示との一体化した開館を目指し、宇佐海軍航空隊跡保存整備計画と足並みを合わせる必要があります。

### ⑤ 見学コースの策定と移動手段の検討

本計画のフィールド展示計画では見学の在り方を示すに留めています。設計段階では、立地に基づいた見学コース及びその他戦争遺構の見学のための移動手段を検討する必要があります。

### ⑥ 運営計画の策定

目指すべき資料館の活動をおこなうために、本計画に基づいた運営計画の策定が必要となります。運営計画では、「展示実施計画」「活動実施計画」「管理実施計画」などが必要と考えます。

### ⑦ 専門職員の採用

資料館は、宇佐海軍航空隊のあった近現代を中心に紹介する施設です。日本の近現代史の専門的な知識を有する専門職員の採用、配置を検討する必要があります。

### ⑧ 正式名称の検討

本計画では、「宇佐市平和ミュージアム」という仮称を用いています。テーマ性や印象性、市民からの親しみ性を加味しながら名称を決定していく必要があります。

### ⑨ 外国人利用者への対応検討

資料館では、多くの外国人利用者也想定されます。ユニバーサルデザインの視点からもふりがな表記や外国語表記、多言語によるパンフレットなどを検討する必要があります。

### ⑩ 市民意見の聴取と反映

市民に開かれ、市民の活動拠点となる資料館となることを目標に掲げています。本計画を市民に広く開示し、感想や意見を収集する機会を開催し、それらの意見を設計、建設に活用する必要があります。

### ⑪ 遺構の市指定史跡化

多くの遺構の中でも「森山中型掩体壕」は、国内最大級の掩体壕で迫力を伴い当時の様子を感じる遺構として貴重なものです。先行して整備すべき遺構に記載されてませんが、早急な市有化により市指定史跡化や整備の検討を行う必要があります。

また、市有化されている「エンジン調整室」についても、市指定史跡化や整備の検討を行う必要があります。

宇佐市平和ミュージアム（仮称）基本構想・基本計画

平成27年3月発行

発行：宇佐市

編集：総務部 企画財政課

〒879-0492

宇佐市大字上田 1030 番地の1